

## 平成29年度第1回青森市健康福祉審議会地域保健専門分科会 会議概要

日 時：平成29年11月13日（月） 午後1時～午後2時

場 所：青森市保健所（元気プラザ）1F 会議室

出席委員：高谷和彦委員、成田祥耕委員、成田憲雄委員、畑中和紀委員、村松薫委員  
《計5名》

欠席委員：加藤由美子委員

事務局：青森市保健部長 浦田浩美、  
青森市保健所長 野村由美子、  
保健予防課長 小形麻理、生活衛生課長 村本道則、  
健康づくり推進課長 鈴木久美子、  
浪岡事務所健康福祉課長 花田清志、  
生活衛生課副参事 古川真人、健康づくり推進課副参事 柴田一史  
保健予防課主幹 奥崎隆浩、保健予防課主査 白取和子、  
健康づくり推進課主幹 中村健、健康づくり推進課主幹 榊乃里子、  
健康づくり推進課主幹 田中牧子、健康づくり推進課主査 種市靖子  
《計14名》

### 会議次第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 青森市保健部長あいさつ
- 4 組織会  
  - (1) 分科会長の選出
  - (2) 分科会長職務代理者の指名
- 5 案件  
  - (1) 元気都市あおもり健康づくり推進計画の進捗状況について
  - (2) 健康寿命延伸に向けた取組について
- 6 その他
- 7 閉会

### 議事要旨

#### 4 組織会（1）分科会長の選出

村松委員を推薦する者があり、全会一致で、村松委員が分科会長に選出された。  
分科会長 村松薫委員（一般社団法人青森市薬剤師会 会長）

#### 組織会（2）分科会長職務代理者の指名

村松分科会長から、成田憲雄委員が分科会長職務代理者に指名された。  
分科会長職務代理者

成田憲雄委員（公益社団法人青森県獣医師会青森支部獣医師会 会長）

## 5 案件（1）元気都市あおもり健康づくり推進計画の進捗状況について

事務局（健康づくり推進課長）から資料1に沿って説明があった。

### 質疑応答

主な質疑応答は以下のとおり

- 歯周疾患検診について、受診率は少しずつ上がってきているところだが、ずっと低迷しており、歯科医師会として市職員に検診が浸透すれば受診率が上がるのではと考えたことがあった。今回、今後の取組に記載していたので、ぜひ進めていってほしい。
  
- がん検診の受診率が低下していることについて、無料クーポン券がなくなったことが影響していると記載があるが、無料クーポン券は復活する可能性はあるのか。
  - ・(事務局) 大腸がんの無料クーポン券は、国の施策で平成27年度まで5年間配付していたもので、平成28年度から無くなっている。無料クーポン券について復活するという情報は今のところない。
  
- 以前、市では健(検)診の強化月間というのがあったと思うが、受診を勧奨していくため、またつくっていったらどうか。
  - ・(事務局) 市民に強力にPRする月間ということでは、9月ががん征圧月間であることから、今年度、広報あおもりにおいて、がん検診の推進のため3ページ使って周知啓発を行った。また、合わせて健(検)診について周知ポスターも各医療機関に配付させていただいたところである。
  
- 胃がん、大腸がん検診など、この4年くらいで受診者数が減っている理由がよくわからない。受診者も、去年受けたから今年はいらないとか、コールリコールしてもかかりつけ医にかかっているのに検査はいらないと思っている事が多いのではないかと思うが、そういう人たちへの動機付けの機会が必要なのではないかと思う。
  - ・(事務局) 動機付けとしてあらゆる機会を捉えるということは大事だと考えるし、市民の皆さんも市が発行している無料受診券を知らないでいる可能性もあるので、先生方からも勧奨をお願いしたい。
  
- ペットでも歯周疾患から心臓病につながるというのが証明されている。心臓病、糖尿病、合併症などいろいろな病気の入り口に歯周病の問題がある。歯周疾患と生活習慣病を関連付けてもっとPRしていく必要がある。ペット業界ではペットフード業者が一生懸命PRしていたりする。
  - ・(事務局) 歯科医師会から、歯周病と全身病との関連をもっと市民へわかりやすく伝えていかないことには、歯周疾患検診率が増えていかないと助言いただき、市では平成27年度から、歯周疾患検診の対象年齢の方に、全身病と歯周疾患の関連を示すA3大のパンフレットを、受診券と合わせご案内してきた。この後、わずかだが受診率が上がってきており、検診の必要性等少しずつ浸透してきていると感じている。今後も全身病との関連をあらゆる機会を通じてもっと市民へ周知していかなければならないと考えている。

## 案件（2）健康寿命延伸に向けた取組について

事務局（健康づくり推進課副参事）から資料2に沿って説明があった。

### 質疑応答

主な質疑応答は以下のとおり

○肝炎ウイルス検診が進んでないのではないかとの印象をもっているが、受診数のデータはあるか。

- ・（事務局）肝炎ウイルス検査の平成28年度の実績は、保健所で行うエイズ検査等と合わせて行うB型C型ウイルス検査はそれぞれ133人、134人で、医療機関で受けている人数は1,680人となっている。

○アルコールの量について、焼酎薄めて飲むからたくさん飲んでも良いといった市民感覚があると感じる。休肝日をつくらうといっても、実際何日設定すればいいかわからないということもあるので、例えば1週間の適度な量はこれくらいなど、そういうことを教えていけば良いと思う。

- ・（事務局）市民に対してわかるように、見えるようにしていくことが非常に重要だと考える。市民の健康の見える化として、飲酒等生活習慣を全国比較して見せていくなど、市民が感覚として理解できるように見せ方を工夫していきたい。

○糖尿病の治療中断傾向にある方への指導をしていくとのことであるが、中断者の理由は把握しているか。

- ・（事務局）今年度の特定健康診査を受診した方の中で、糖尿病で服薬中の方は75名と把握しており、この方々のうち中断傾向にあるかどうかというのは、コンタクトをとらないとはっきりとわからない。コンタクトをとり、今のところは、18名の方へ保健指導しているという状況にある。保健指導を行っていく中で、理由も含めて把握していく。